

ふなばし♥あったかんぱにー

平成 26 年度 船橋市障害者雇用優良事業所表彰



近年、障害のある方の雇用状況は着実に改善されており、本市においても職場実習先の開拓と共に、障害のある方を雇用し、職場実習を受け入れた事業所に対して奨励金を交付するなど、障害者雇用を推進しています。

しかし、従業員 50 人以上の市内事業所で法定雇用率(2.0%)を達成する企業は 49.7%に留まっています。(平成 26 年度千葉労働局による障害者雇用状況調査報告)

そこで、障害のある方を多数雇用し、働きやすい環境を作るための工夫や、職場実習の受け入れを積極的に行っている事業所などを優良企業として表彰し、広く公表することにより、これから雇用を考える事業所へのアプローチを図りたいとの思いから、今年度、「船橋市障害者雇用優良事業所表彰 ~ふなばし♥あったかんぱにー」を実施しました。

応募のあった市内事業所について審査し、今年度は 3 事業所が表彰されました。

その優れた取り組みをご紹介しますので、今後の雇用の参考にさせていただければ幸いです。

平成 27 年 3 月

船橋市経済部商工振興課

TEL 047-436-2477

※制度については、船橋市ホームページをご覧ください。

株式会社三和製作所 京葉物流センター

会社の考え

衛生用品や学校保健室用品を販売する(株)三和製作所京葉物流センターでは、約30人がこれらの商品の梱包から出荷までを行っています。

特別支援学校にも商品を届けており、従業員は生徒たちの様子を見ています。以前から、障害のある方とも働く機会があれば積極的に受け入れたいと、会社として考えていました。



少人数の事業所でも雇用



また、扱う備蓄用缶入りパンは、障害者作業所で作られたものを仕入れていきます。

雇用までの経緯

現在、働いている女性は「特別支援学校から初めて職場実習に来た方なんです」と、木下智史センター長が紹介してくれました。

仕事は、商品の組み立て、シール張り、梱包です。「障害のある方にやってもらおう仕事として切り出したもので、実習生も同じ内容です。それぞれの得意なことを見て、その中からお願いしています」と、現場を担当する吉田裕二センター長代理は言います。

何度かの実習で、仕事と職場の雰囲気慣れた彼女を、現場の皆さんは温かく受け入れ、4年前に雇用に至りました。

雇用をしてみても

吉田さんは、「不得意な作業を無理にさせるようなことはしません。むしろ、できたことをほめるなど、声をかけてモチベーションを保つようにしています」と言います。

一緒に働く皆さんは、「几帳面な性格で、きっちり正確に作業をします」「休憩時間には、休みの日のできごとなどを話してくれます」、そして誰もが「初めは気を遣った方がいいかと思いましたが、健常者と変わらないので、今では他の仲間と同様に接しています」と言っています。

彼女の支援機関や保護者とは、連絡を密に取っています。「会社の親睦会には、本人だけではなく保護者にも声をかけます。以前、お母さんも参加されたことがありますよ」(木下さん)。

本人は、「職場のみんなは優しいです。通勤も仕事もたいへんですが、がんばります」と答えました。

これから…

「センターの規模があまり大きくないので、何人も雇用するというわけにはいきませんが、実習はできる限り受け入れ

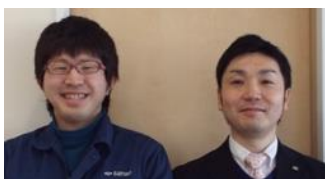
たい」(木下さん)と、彼女以降も、特別支援学校から毎年1〜2回の受け入れをしています。

職場実習では、その方が得意なことをあらかじめ聞き、必要であれば手順を写真で説明したマニュアルを作っているそうです。

また、学校と連携した作業訓練などのプランも考えているそうです。「障害者雇用をたいへんだと思ったことは一度もありません。むしろ、个性的でおもしろい」と、吉田さんはとらえているのです。



所在地: 船橋市海神町南
業種: 学校保健用品卸
従業員: 30人
障害者: 1人



(右から) 木下智史センター長、
吉田裕二センター長代理



- ★ センターの従業員は少人数だが、雇用を続け、職場実習も受け入れている。
- ★ 障害者が働く施設への業務発注を行っている。

審査委員
評価
ポイント

株式会社ティーエスケー



会社の考え

集合住宅や商業ビル、公共施設などの改修工事を業務としている(株)ティーエスケーは、船橋で創業して70年の歴史を持つ会社です。「人材こそ財産」をモットーに、「この地で業務を拡大してこられたのも地域のおかげ」と考え、地域貢献の意味からも、さまざまなハンデイヤップを持つ方の雇用を積極的に進めています。

仕事に集中できるように環境整備

雇用までの経緯

工事現場では障害のある方が働くことは難しいと考え、総務部門での雇用を検討しました。長く雇用に携わってきた本多俊行常務は、ちばぎんハートフル(株)(千葉銀行グループの特例子会社)などの視察や、障害者についての勉強を重ね、受け入れに向けて動き出しました。

その頃、県の「障害者就業体験雇用促進事業」への協力依頼がありました。企業内実習から雇用につながるもので、この事業から雇用したふたりを含め、現在では4人の障害者が働いています。

雇用をしてみても



精神保健福祉手帳を所持する方3人は、本多さんが統括する総務部に所属します。仕事の内容は、パソコン入力、物品の在庫確認、郵便物の開封などで、「その方の得意なことを聞いて決めている」(本多さん)そうです。

「一番大事なのは、朝出勤して決められた時間は会社におり、安全に帰宅することです」と本

多さんと言います。それを前提に、仕事内容や勤務時間を、その人ごとに決めます。また、「物音や人の気配が気になる」方のために、パーテーションで机を囲って集中できる環境を作るなどの工夫もしています。

今年になって、視覚障害のある方を求人採用関係の作業で雇用することになりました。通勤が困難なため、初めての在宅勤務を取り入れています。

職場では、「お兄さん」「お姉さん」(役(ジヨブコーチ)と呼ぶ指導役を決め、仕事を教えています。また、発達障害のある方には「業務日報」に、時間ごとの疲労レベル、気分レベルを数字で記入してもらい、指導役と本多さんが毎日、コメントを記入しています。

とてもうまく受け入れが進んでいるように見えますが、最初は社員の理解を得るのがたいへんだったそうです。「自分が見ていられる部署で雇用をする」と決めた本多さんは、厚生労働省の障害者雇用に関する指針を総務部の職員に配布して



受け入れがスムーズに進むように工夫しました。

これから…

障害者のみなさんは、「今はフォローしてもらっていますが、自分で考えて仕事ができるようになりたい」「できることを増やしたい」と前向きです。初めて障害を開示して就職した方は、本多さんの秘書役として外部研修にも参加しています。

障害のある方たちと共に働く社員は、「それぞれの特性に合った説明をする」「『適当に』が通じにくいので、明確に指示を出す」など、障害への理解を深めようとしています。同じ職場で働くことが「自分の仕事の理解も深まる」という感想も出ています。



本多俊行常務



所在地: 船橋市高瀬町
業種: 総合改修工事業
従業員: 109人
障害者: 4人



- ★ 有期雇用から無期雇用への登用制度がある。
- ★ 職場環境を整備し、仕事に集中して取り組むことができるよう工夫している。

審査委員
評価
ポイント

船橋興産株式会社

会社の考え

廃棄物の中間処理業務を行う船橋興産(株)は、「環境と人との調和を図る」という理念のもとに、障害者雇用に関しても社会的責任と考え、取り組んでいます。

中間処理場ができた頃、特別支援学校から職場実習の打診があり、安村秀雄常務は「ここでもやらせてもらえる仕事があるのでは」と考えて現場職員と相談



職場実習を積極的に受け入れ



雇用までの経緯

の上、受け入れを開始。平成20年以來10度にわたって、実習生に仕事を教えてきました。

中間処理場では、空き缶つぶしと発泡スチロールの粉砕をしています。回収された空き缶は、コンベアーに載せて機械で潰し、まとめます。発泡スチロールはシールをはがして機械で粉砕しパレットにします。

船橋興産(株)では、現在、障害のある方がふたり働いています。ひとりは、中間処理場で働く男性。特別支援学校在学中に3度の実習を経験しました。学校を卒業した平成22年の春に採用され、空き缶の処理を任されています。

共に働く米倉徳之さんは、知

的障害のあるこの男性のことを「彼にとって初めての仕事で少し心配しましたが、繰り返し教えることで、今ではすっかり慣れたようです」と言います。実習後、雇用について検討したとき、現場から「彼となら一緒に働くことができる」とお墨付きをもらい、採用が決まったそうです。

雇用をしてみても

米倉さんが「体が丈夫で忍耐力があります。この5年間、欠勤はないのではありません」と言うと、安村さんも「電車が遅れたときも、証明書をもらって出勤しましたよ」とがんばりを評価。

障害者に対して特別に構えていることではないのですが、男性の場合、通勤時間を考えて、他の職員より仕事が1時間早く終わるようにしているそうです。また、保護者や支援機関とも連絡を取り合い、共に支援しています。

男性は「まだうまくできないこともあります。休みの日には友達とカラオケに行きます」と、笑顔で話してくれました。

もうひとりの障害のある方は、ショッピングモールの共同ゴミ集積場で分別作業をしている60代の男性。8年ほど前に一般枠で就職した後、視野狭窄であることを申告しましたが、仕事に影響はない



ため、続けて働いています。「無理せずに働くことができ、ありがとうございます」と言い、生き生きと仕事に励んでいます。

「いなか」

船橋興産(株)では、職場実習については、特別支援学校から度々問い合わせがあり、今後も積極的に受け入れをしていく考えです。その時は、中間処理場で働く男性が、先輩として仕事の指導をするそうです。「自分自身の安全を確保できる人であれば、一緒に働くことも可能だと思いますよ」と、安村さんは話しています。



(左) 安村秀雄常務と、(右) 米倉徳之さん



所在地: 船橋市高瀬町
業種: 廃棄物処理業
従業員: 96人
障害者: 2人



- ★ 2人の障害者を複数年、雇用している。
- ★ 県内特別支援学校からの職場実習を、積極的に受け入れている。

審査委員
評価
ポイント